第16号
昭和47年3月

会　報

発行　北海道高等学校
教育研究会事務局
札幌市伏見町1872の4
札幌旭丘高等学校内
電　話　561−1221番

ごあいさつ

オリンピック聖火を札幌にむかえ、札幌の街を色とりどりの外国選手が歩いているこの頃ですが、会員各位にはいよいよご健勝で第3学期のスタートを切られたことと思います。

さて、第9回北海道高等学校教育研究会は1月7日、8日の両日、札幌厚生年金会館その他の会場で、3,300名をこえるかつてない多数の会員のご参加をいただき、盛会裡に終えることができました。つきましては、その研究大会報告がまとまりましたので、お手許におとどけいたします。この報告でもおわかりのように、各部会では極めて多彩かつ真摯な実践研究の協議が行なわれましたことに対し、心から敬意と感謝をささげたいと思います。また、本大会運営にあたられた役員各位に改めて深くお礼申し上げます。

今回の大会は、総会場をはじめて札幌厚生年金会館としたこと、各部会の研究協議がどの会場も溢れるほどの多数のご参加を得て、いつそう厚味をました研究であつたこと、昭和48年度から実施される学習指導要領の研究が深められたこと、冬季オリンピックを迎える直前の札幌で行なわれたこと、そして岡村教育長の辞意表明というおまけまでついた幾多の特徴があげられます。

しかし、それだけいわゆるマンモス大会に伴なう諸問題が顕著になつてきました。参加旅費や会場や、研究テーマ、事前研究や当日の運営等いろいろと問題があると思います。今後これらにつきまして、各地区、各部会でのご批判、ご反省を本部にお寄せ下さるようお願いいたします。

来年の大会は、「第10回記念大会」をと考えていますので、会員各位のいつそうのご協力とご援助をお願いする次第です。

会長　磯　貝　芳　司

◎　日程第一日・全体集会

<全体講演>（午前の部）

〔講演要旨〕

「民主主義を考える」　　東京大学教授　林　　健太郎氏

民主主義が現代の支配的理念であることは疑いない。しかし、民主主義が戦後の日本では新しくアメリカから教えられたという形で受けとめられ、始まつたことに問題があつた。この２０数年間は、戦争に敗けてかえつて利益を得たという点では、歴史上めずらしい時期であつた。国家の安全保障についても、経済の発展についても、色々な意味でアメリカを保護者として育つてきた。しかし、昨年の様々な事件が示すように、現在の日本が大きな変化の時期に際会しており、民主主義についても、外から与えられた、惰性的・他動的な状態を脱しなければならない時期にきている。戦後の民主主義観には２つの欠陥がある。１つは、民主主義を過去と切り離されたものとしてうけとり、それが歴史の産物であることを忘れていること。１つは、民主主義を万能薬と考えることである。様々な欲望をもつ沢山の人間が集まつてできている社会、様々な団体があり、職分があり権限があり、にも拘らず全体として一つの秩序を保つていくために、色々な経験の末に考えだされた、一つの、しかし現代では不可避的な制度、考え方が民主主義である。これを、万能薬と考えたり、またのつぺらぼうなものとして、どこまでも機械的におしつけていくことは、本来の社会の営みを殺してしまうことになる。歴史の産物として民主主義を考えてみると、その精神は限られた範囲では封建時代にもあつたし、近代の民主主義も現在我々がみるような形になるのは、婦人参政権や普通選挙制の例をみても、日本だけでなくヨーロッパにおいてもかなり新しいものである。一方、民主主義の失敗の例も過去にはある。民主主義の淵源とされている古代ギリシアとくにアテネでも、うまくいつた時期は非常に短いのであつて、その没落の過程をみると民主主義の悪い面がよく表われている。多数の意志に従うという民主主義の制度は、実際にこれをうまく運営することはやさしいことではない。すぐれた面と利己的な面をあわせ持つ人間が集まつてものを決めていくのだから、下手をすれば、その悪い面ばかりがでてくる。個人の利己主義よりもつと悪い集団的利己主義が出てくる。近代ヨーロッパのデモクラシーの歴史でも、フランス革命において民主主義を標榜するジャコバン党の支配が独裁に変化したが、これと似た例はロシア革命にも見られる。民衆の一種のラジカリズムを基盤にして民主主義を叫ぶことは、結局それとは逆の強固な独裁主義ができあがるという例は歴史上にいろいろある。そこで、このようなことを防ぎ、民主主義を有効ならしめるには、秩序の維持と、議事の運営などのルールに従わねばならない。それには、つまりイギリスに発達した議会制度 ― 色々な欠陥はあるが ― 間接民主主義ということになる。今日、直接民主主義を主張する声があるが、近代の大きな民族国家では不可能であり、また古代のアテネでみられたように、デマゴーグさらにその背後に強固な組織がある場合には、その１党独裁になつて民主主義が死滅することは歴史の示すところである。個人の解放の上に立つ近代社会、しかも膨大で複雑なメカニズムをもつ社会では、人間は法の前に平等である。しかし、同時に世の中を動かすのは単なる観念ではない。それぞれの目的をもつ団体に、国会議員の選挙と同じ方法を適用すれば、それ等の団体のもつ職能や使命は死ぬ。今の世にはマネージメントの役割りの必要が増している。そこには上下の区別が生ずるが、この上下の機能がうまく機能する事が必要である。デモクラシーにはリーダーシップが必要であり、それが悪ければ最悪の制度にもなりうるのである。民主主義とは元来秩序維持の為にあつたもので、歴史の中で先祖よりの色々な経験の積み重ねの上で作りあげてきたものであり、また我々自身がたえず考え、実践していくものなのである。

<全体講演>（午後の部）

「教育革新の課題」

能力開発工学センター所長　矢　口　　新氏

本日は、自分で実際に教育革新に努めてきたことをお話しして、諸先生の今後の前進のためのヒントとして頂きたい。我々は少年時代、母から元日にいい事をすれば一年中できますよと教えられたが、それは子供に豊かな人間性を育てようという願いであり、セルフコントロール（自己統御）の力を与えようという親の愛情であつた。現在の教育にはこれが欠けているのであり、明治以降の知育偏重の結果、理性さえ育てれば

人間は育つという思想が流れているが、これは根底において疑うべきではなかろうか。自分で自身を育て、日常の生活において実践していく人間を創ることにこそ教育の意味があるのであり、現在のように道徳教育さえもが教科書で教えるという域をでていない点は非常に疑問があろう。

我々は本を読んで〃わかつた〃と感じているが、問題はそれによつて何が〃できる〃かということであり、それが現代の教育において忘れられているものである。〃できる〃ようになるためには、場面場面における〃神経の働かせ方〃が大切で、生徒に対し自らその神経を働かせること、主体的に人間を行動に向わせること — これが教育のなすべきことである。ところが明治以降、寺小屋や武家の教育にあつた人間教育の精神を失い、神経を働かせたその結果だけを教えており、相手が自分のいうことを〃わかる〃という点のみを重視し、相手がそれを〃できる〃かどうかという点をみていない。

以上のような〃わかる〃ことが〃できる〃ことになるための訓練を自動車運転というシステムで映画で紹介してみたい。神経のその場での働かせ方がよく理解される筈である。また次の映画で、それが学習にどのように応用され問題解決の方法を身につけさせるかをみて頂きたい。現代はこのようなコンピューターの利用による学習指導を考えていかねばならない時代である。

教育が前述のような〃行動する習慣〃を身につけさせなかつたことが、例えば — 現在の生徒にみられるように、みんなで協力していく姿勢の欠如、生徒会活動の不振、言うだけで実行しない、等の傾向を生みだしているのであり、また、公害問題などにおいて自ら周囲の情報を集めて自分で行動するという習慣がないために現在の状況を許してしまつたのである。（公害はある意味では教育の責任であり、教育の生みだしたものといえる。このように我々は環境異変を感知し行動する能力を失つてしまつたのであり、これからは自分のまわりのものを正しいかどうかを見極める人間を創つていかなくてはならない。）〃人は坐つたことのないイスに坐ることはできない。〃空虚な知識に人間の本体はないのである。

我々はまず現実の生活にあるものから始めなくてはならない。いかに教育機器を使うかではなく、いかに生徒を活動させるか — それこそ教育のテクノロジーである。この生徒に実践させる教育を行なうために、我々は個別教育によつて生徒の行動する様々な場を提供しなければならない。その際、〃工学イデオロギー〃から学ぶことは、教育函数をはつきりさせてその条件を整えてやる、即ち上限をきめて生徒に努力させることの意義であり、それを行なうのが教育者の仕事であり、それが教育職を専門職とする所以である。北海道の全くの原野を切り拓いてきた先人を振返り、その子孫である我々は何をしなければならないかを今こそ考えていこう。

◎　日程第二日・部会別集会

＜国語部会＞

＜研究発表＞

(1)　授業改善のための一つの試み

—生徒の現国と古典に対する意識調査—

旭川北　武田　哲

国語を現代国語と古典とに分けたことによつて、教師の意識も変化し、教科としての統一性も失われかけているのではないかという立場から、現代国語と古典に対する生徒の意識調査を通して、国語教育の問題点を指摘され、いくつかの授業改善の方途を発表された。特に何を教えるかを明確に意識した授業構成が必要であると説かれた。

(2)　教育機器利用時の評価についての一考察

美幌　村上義夫

生徒の意識調査にみられた学習に対する消化不良現象を教育機器によつて解消しようとする立場から、機器利用時の評価はどうあるべきかを実験学級によるＶＴＲ学習を通じていくつかの実例をあげて述べられ、学習方法の現代化に即した評価方法の研究の必要性を説かれた。

(3) 古文の学習指導上の諸問題

函東　菅　原　善　直

入学当初にみられた古典学習への興味・関心が、その後の学習意欲につながらないという古典指導の問題を検討するために、古典学習に対する意識調査をもとに、時間単位数の不足、大学入試の弊害、文法指導・教材配列の検討の必要性など、日頃の実践に即して、多角的に発表された。

(4) 「論語」と現代

札北　戸　倉　　博

古典を創造的に把握させることが、重要な任務でありながら、正確に伝達することにさえ難渋しているのが国語教師の現状である。そこで生徒の古典認識の姿を確かめるために、論語をとり上げ、孔子、論語に対して(1)指導前の生徒のイメージはどうか。(2)指導によつて正しく追体験できたか。(3)指導後のイメージは変化したか、という観点から授業を分析され、創造的古典学習への要素・要因を具体的に指摘された。

＜講　演＞

「古典と現代」（要旨）

二松学舎大学教授　佐　古　純一郎氏

古典と現代国語という分類に疑問を感じる。扱い易いという先入観から現代文学を卒論に選ぶ学生が非常に多く、現代国語は教えにくいという教師の声もまた多い。一見矛盾しているようであるが、両者の意識の中に古典と現代の断絶感がある。西行・宗祇に貫道しているものは、夏目漱石、太宰治、小林秀雄にも流れている。客観的には古典と現代の間に断絶はありえない。社会的歴史的差異はあるにしても、明治以降を現代国語とする教科書の扱い方は方便にすぎず、文学を読み、鑑賞し、批評するという文学的行為に変りはない。

しかし、現代国語には非文学の教材が多く、あらゆる分野の知識が要求される。そこに教師の苦手意識が生ずる。古典は文学教材が多く、単なる注釈だけが古典指導だとする意識が根強く残つている。その段階では古典指導は実にやさしいといえる。しかし、現代に生きる存在として、教師が主体的解釈をしなければ、古典を現代に生かすことはできない。古典と現代との断絶は、教師の主観の作り出したものにすぎない。

古典と現代とをつなぐものは一体なにか。それは「私」（主体的契機）以外にない。現代に生きる「私」は問われている存在である。強烈な問題意識・探求心を持つて、一つの存在が歴史的にどのように形づくられ、それが現代にどう継承されてきたかを探求する歴史意識を国語教師は持たなければいけない。そして、上代から現代に至る主要作品を問題意識を持つて、たえず読み続けていこうとする初心を忘れることなく、主体の充実に努力することが必要である。

＜社会部会ー倫理・社会分科会＞

＜講　演＞

「現代理性の功罪」

東京教育大学教授　小　牧　　治氏

＜要　旨＞

科学・技術の進歩は、一方では人間に豊かな生活を準備しながら、他方では大衆を合理的に支配する強い力となつた。この中で人間は、自由や批判的精神を失ない、科学的技術的な現実にどうあわせるかを思案する道具となつた。いまや自主、独立、個性にかわつて画一化、規格化、一様化が支配している。

近代人の目標は、理性的な自我、自由な思考によつて人間らしい展開をすることであつた。しかるに、この理性主義、自由主義は、理性不能におぼれるあまり、本能、自然、衝動のもつ重要さを忘れ、自己の生活をも理性の支配においやり、人間を抑圧することとなつた。

本来自由で自主的であるべき民主主義は、それが一つの合理的機構となつたとき、それは自由を奪つた。むしろ人はその外面的・形式的民主主義のもとで、その操作に自己を任せようとする。そこにファシズムの温床の危機がある。

このような現実の矛盾、ゆがみを見抜き批判する。(現実に適応しようとする思想をも）近代的な合理主義、自由主義の中にある危険なかげりを批判する。それは道具化された理性が、自己自身を反省し批判すること

である。

フランクフルト学派の思想は人間と自然、理性と感性、個人と社会、合理と非合理、科学と宗教の関連を訴え、この近代的理性不能に対する批判、反省によつて、われわれは真実 ― 虚偽でないものを見出せるのではないだろうか。

＜研究発表Ｉ＞

「倫社における諸問題」

雄武　川　端　良　男

倫社における指導上の問題を次の諸点を通して指摘された。

(1) 評価について ～ 理解力と論証力を中心として、評価のあり方を考えなおす必要はないか。

(2) 倫社の位置づけ ～ 倫社とLHR、生活指導との関連が問題であるが、倫社は教科であるから教師が指導性をもつて臨むべきである。具体的には教師が問題点を投げかけ、生徒に考えさせて、自ら結論を出させるようにありたい。

(3) 倫社の内容 ～ 倫社は①存在・論理の学問を基礎とする＜心理・社会＞の分野と、②当為・価値の学問を基礎とする＜世界観・人生観＞の分野から構成されているが、②の分野においては科学性をいかに貫くかということが問題となろう。

提案に対し、倫社とＨＲ、生徒指導との関連について質疑があつたが、最終的には、ＨＲの指導内容中の「人間としての望ましい生き方」がもつとも関連をもつもので、それが道徳教育の根底になる。ここでは個と全体のあり方をどう捉えるかが問題であり、ただ倫社は教師、ＨＲは生徒主体であるという捉え方を固定せず、そういつた傾向を持ちながら指導するということが大切であろう、という助言でまとまつたようである。

＜研究発表Ⅱ＞

「発想における現代化と現状的発想の周辺について」

羽幌　葛　西　摩季二

現代社会では自己に内在するものと、外面に表われるものが遊離している場合が少なくない。すなわち、主我の放棄といえる現象が現在の実態である。その点にメスをあて、現代社会での発想方式がいかなるものであるかの分析を試みている。

1. 現状的発想の周辺

① 自己の位置についての認識

自己は考える出発点であり、また自己をつかまえる出発点であるが、〃全体のなかのひとり〃という観点が、市民としてわたし（共同主観）の中にとらわれ、つねに全体（対権力・対人）とのかかわりの中で自分をとらえている。

② 現状における発想方式

そこには二つの発想があり、一はつねに対象に従属して自己がある（主我の対象への従属＝政治力学的発想）。二は、自己そのものが対象に向けられ、対象をおおう（自己保存的＝母親的発想）以上二者は有効性という面からの発想であるが、さらに一体化の発想がある。キリスト教、仏教的発想であり、絶対正義への従属というべきものである。

2. 発想における現代化……（省略）

現状発想の問題について、どのような発想を肯定するか、また否定の観点はどうかについての質疑があつたが、問題が抽象的で大きなものであるだけに結論はでなかつた。

まとめとして助言者より、思想の研究も一つの方法ではあるが、高等学校の倫社ということから考えて、こういつたものをいかに授業の中に生かすかという指導上の問題の側面を深めてほしいという要望があつた。

＜社会部会一政治・経済分科会＞

午前「社会科教育の現代化とその方向」の主題のもとに、授業実践にもとづく二つの研究発表が行なわれ、午後「国民所得からみた日本経済」と題する長谷部亮一氏の講演があつた。概要は次のとおりである。

＜研究発表Ⅰ＞

「学習を深めるためのねらいと内容およびその方法」

清水　遠　藤　昭　夫

＜発　表＞

社会科は科学的社会認識を深め平和で民主的な社会の創造者にふさわしい判断力、実践力を育成する教科であると云われ、その目的達成には単に社会科学的知識を平板的に教授するだけでは不可能であり、社会科学的知識よりも、その過程を重んじ社会科学的見方、考え方の育成に力点がおかれるべきである。そのためには学習が生徒の問題意識に根ざしたものでなければならない。

そこで、まず生徒の実態を把握し、問題点を浮きぼりにした上で、生徒の立体的・意欲的学習を志向するためにはどのような指導展開がなされねばならないかを考える必要がある。そのためには(1)授業の視聴化（ＯＨＰ、スライド利用）と(2)学習の個別化（クリアシートに感想を記載させるなど）の工夫がこらされねばならないと考える。

＜討　論＞

「学習を深めるにはどのような方法が考えられねばならないか」をめぐつて「教材の精選、特にテーマの選定についての問題」、「授業の方法．教材内容に応じた学習ないし授業方法の工夫についての問題」、「教材の視聴覚化、特にＶＴＲ、ＯＨＰ、スライドを活用する場合の問題」、「授業診断チエックリストの活用と各科の協力体制の問題」などを中心に討論が行なわれた。

＜研究発表Ⅱ＞

「＜政治・経済＞における公害学習・指導の取扱いについて」

本別　仲　井　照　順

＜発　表＞

近時、急速な勢いで公害が注目を浴びるようになつた。新指導要領でも、日本経済と国民福祉の単元で公害問題を取り扱い、それへの関心を喚起し、その解決へ取り組もうと意図している。しかし公害を経験し、直接生活に関係する地域を除けば、この問題は無関心にながれやすい事柄である。けれども公害が経済成長とともに加速度的に増加し、人間生活をおびやかす元兇となつている今日、公害教育の必要性と重要性はますます高まつていると考える。

公害問題の指導にあたつては、少なくとも次の目標達成が目指されなくてはならない。すなわち、1.公害とは何か、それはなぜ発生するのかについて科学的な理解をもたせる。2.公害問題の解決は人間が生きるための権利・義務である生活環境の保善の問題と深く関連していることを理解させる。3.公害を絶滅するためには国家や団体の制度的・財政的措置が必要・不可決であることを理解させる。4.国民一人一人が積極的に環境保全に取り組むとともに、公害管理者としての自覚をもたせるようにするなどである。

＜討　論＞

「公害指導の視点をどこにおくか」をめぐつて「指導のポイントをどこにおくか」、「指導の内容、および配当時間をどの程度にするか」、「資料をどう取扱うか」、「他教科、特に理科、保健との関連・調整をどうするか」を中心に討論が行なわれた。

＜講　演＞

「国民所得からみた日本経済」

北海道立総合経済研究所長　長谷部　亮　一氏

＜要　旨＞

最近、国民所得、特にＧＮＰによつて市場規模と国民福祉の両方を測定しようとする傾向があるが、これは誤つた理解の仕方である。

ＧＮＰは市場の規模と構成を分析するための指標であり、国民の生活水準を測定する尺度とはならない。従つて、そのためには新たな指標が考えられねばならないが、米国のＭＥＷ、日本のＮＮＷの指標研究に注目したい。

＜社会部会ー日本史分科会＞

部会の設定による「現代史」中、本年度は大正期が研究発表及び講演のテーマとなつた。

＜研究発表＞

「学習意欲を高める指導法の究明実践例＜大正デモクラシー＞」

名寄　中　斉　利　信

「第一次世界大戦の取り扱いの一例＝視聴覚教材の効果的利用法＝」

赤平西　古　屋　要　助

両先生の詳細にして具体的なる実践論並びに実践予定の研究発表が行なわれた。両先生ともに、生徒の実体を十二分に把握し、教授内容に創意工夫をこらし、真に歴史を通して物を見る心、考える心を生徒に植えつけてゆこうとする情熱がひしひしと感ぜられ、出席者一同に深い感動を与えた。我々は常日頃ややもすれば、授業展開にあたつて、一方的に教科書中心、項目羅列のつめ込み授業に堕する傾向になり勝ちであるが、両先生は生徒を如何にしたら主体的に学習に参加させることが出来るかに腐心され．そのために教材内容の精選、資料の活用、視聴覚教材の利用など授業展開に創意工夫をこらし、歴史的意識の生徒への定着化に努力されている点、大いに反省させられた所である。しかも取上げたテーマ「大正期」は出席者の大部分が未だ授業に取上げていない個所だけに、夫々今後の授業展開に大きく益するところがあつたと思われる。授業も要するに一種の経営と見做しうるので、教える側としても絶えずＰｌａｎ→Ｄｏ→Ｓｅｅのサイクルを意識の中におき、一年間の授業を綿密な計画のもとに、授業の工夫・施設設備の活用、生徒への熱情をもつて当り、生徒をして歴史に親しませる方向を考えるべきである。そのため授業にあたつて教師自身が最も進歩的にならなければならぬとの助言者の言葉も味わうべきであろう。

＜講　演＞

「大正政治史の諸問題」

北海道教育大学教授　榎　本　守　恵氏

近代史研究において、大正期に関するそれは、あまり進んではいないけれども、一般的に大正期は明治期より昭和期に至る過渡期として位置づけられている。したがつて、僅か１５年たらずの短い年月であるが、すべての面において前期（日露戦争後～第一次大戦）は明治の伝統の踏襲の中に過ぎ、後期（第一次大戦後～犬養内閣）は来たるべき昭和への継承の要素を孕んでいると見做される。この過渡期という点をふまえて、〃大正デモクラシー〃の担い手として政治的にはじめて登場して来る民衆（大衆）の動きに焦点を置きながら＜既に１９０５年の日露講和反対の大衆行動のつながりの上に、護憲運動を見るのであるが＞、大正初年の第一次護憲運動、大正末期の第二次護憲運動、更にはその間に起こつた米騒動・政党内閣の成立等を柱として、西園寺内閣（第二次）より政党政治に終止符を打つた犬養内閣に至るまで、時期的に段階を追つてのべ、更にこれらに関連する経済・社会・文化思想等の動きを織込んで、詳細に大正期の推移を説明された。直接明日の授業への足がかりとして、大正期を如何に指導すべきであるかという点において、稗益する所が大であつたと思う。

＜明年度のテーマ＞

講演終了後、直ちにアンケートにもとづき、明年度の研究テーマが討議され、結局、『昭和史全般』を取り上げることに決定した。

＜社会部会ー世界史分科会＞

＜研究発表＞

「意欲的な世界史学習への一方法～ヨーロッパ中世の展開～」

月形　実　吉　正　司

＜概　要＞

従来の教科書中心の講義の単調さから脱し、世界史に対する関心・興味を高め、歴史的思考力の向上、自主学習への方向づけを目指した実践例を発表された。従業の展開にあたり「量的減少＝精選、質的精選＝構造化」と考え、又〃覚える歴史〃→〃考える歴史〃との観点より、家庭学習、作業を重視した〃レジメ学習〃

という方法をとつた。1テーマについてのレジメ使用枚数を少なくし、生徒の能力に応じて、内容、表現方法に留意し、常に疑問をもたせるように作成し、予習と復習のできるように配慮した。授業は、講義、OHP、発表、バズ等を組合わせ、多様な刺激を与えて関心度を高めるよう努力した。具体例として〃ヨーロッパ封建社会〃の大テーマの内〃都市の発達と中央集権国家の成立〃について示された。最後に、㋑学習内容の精選をどのように考えていつたらよいか。㋺OHPをどの場面でどのように使用したら効果的な授業となるか。と提言され、これを中心に討議に入り、種々と具体的な事例が各校より示された。㋑については、〃現代化〃の定義は確たるものはないが、〃方法上の問題〃としてとらえられている。目標ないしは内容の現代化については、〃生徒の不消化度〃が大きな問題となつているが、生涯教育の一環として高校段階での教育内容の精選が必要であろう。又、生徒に歴史を書かせるのも一方法ではないか。現代化は技術の問題、方法の問題よりも教材観の現代化にあるのではないか。などの助言をいたゞいた。㋺については、教育機材は万能ではなく、各々の特性を生かすべきであり、VTR等は授業の進行に合わせて使用できる利点もある。要は機材の特性の充分な把握と教材の厳選が必要であるとまとめられた。

＜講　演＞

「ヨーロツパ封建制の成立」

北海道大学教授　石　川　　武氏

＜要　旨＞

〃封建制〃の概念はきわめて多種多様に用いられているが、「封」の授受をともなう主従関係という、法制史的意味に限定して用いる。フランク時代における封建制の成立をいわゆる古典学説によると、社会の基礎をなすのは「一般自由人」であり、フランク時代、王権を中心に形成されたグラーフシヤフトにおいても変りはなかつた。しかし、分割相続と内乱のため、自由人は没落し、グルントヘルシヤフトにおける隷属農民となり、一方自由身分を保持しえた者も貴族と私的な主従関係を結び、更に王権とグラーフの間にも拡大されて封建制が成立したと考える。これは19世紀中葉のドイツの国情を反映した学説であり、現在批判が加えられている。その中心は、①豪族支配体制の始源性の主張、②国王自由人概念の提唱の論点に集約される。封建制は人的契機としての家臣制と物的契機としての恩貸制が法的に結合されることであるが、古典学説は、アラビア人の侵入→カールマルテルの騎兵隊創出→家臣への給与のための修道院領収公→家臣制と恩貸制の結合と説くが、収公によつて生じた教会の頽廃対策、いわゆる「国王の命によるブレカリア」創出を媒介として恩貸制は家臣制と結合した。メロビング時代については殆んど不明であり、古典学説は9世紀のイメージで逆考している所に難点がある。軍隊王権としてantrustioとleudesという範囲の異なる従士団によつて構成されていたが、官僚制的なものはなく、豪族支配体制を前にして国家形成の試みは一旦中断する。カロリング時代、オストフランケン地方への植民開発と共に国制の組織化が進められ、王領地の監視人としてのグラーフの創出となり、更に〔のちの自由人ーフンデルトシヤフトーグラーフシヤフト〕という官僚制的国家組織の原型が生まれて行つたのである。

＜社会部会ー地理分科会＞

＜研究発表＞

「小規模校（へき地校）における視聴覚教育の計画的利用と評価」
ー昭和44年度～46年度の実践報告としてーー

穂別　石　川　真　則

「効果的な地理の学習方法」
ー視聴覚教材教具を活用してー

士別　中　西　　隆

「地誌的に考える地理学習」
ー新課程「地理B」準備のための試行ー

札幌開成　加　藤　　実

以上の発表をもとに検討に移つた。
講師の市川正巳先生から発表者に質問が出されこれらの質問を通して話題は新教育課程についての話しに

も発展した。

討議時間も不足で充分な討論は出来なかつたが助言者の大沢、内田両先生から、これからの地理教育のあり方として次のような点が上げられ午前中の研究発表を終了した。

o範例学習を徹底して学ばせ能力育成をはかり他学習の転移力をはかる。

o新教育課程〃地理B〃の取り上げ方として戦前の産物地理に落ち入る心配があるだけに教師は充分な注意をはかる必要がある。

oそれには住民の息吹きを感じさせる授業を展開する。

o常に新しい資料を充分に系統的に取り上げ、どのように利用したならば生徒の能力育成をはかれるかを考慮する。

o〃地理A〃〃地理B〃のいずれかを取り上げるかについていろいろな角度から検討がなされる必要がある。

＜講　演＞

「世界地誌の諸問題」

東京教育大学教授　市　川　正　巳　氏

上記の演題で

Ⅰ　地域の概念と地誌的方法

1.　地域ーその理論と方法

A　地域研究の一元化

B　地域研究の手順

2.　地域研究の基礎的事項

1）指　標

2）範　疇

A　単一事象地域

B　多事象地域

C　総体複合地域

3）核心と限界

Ⅱ　世界の地域区分

Ⅲ　ラテンアメリカ

世界地誌の一例として

先生はこの研究会のためにわざわざ上記のプリントを作られ参会者全員に配布し学問的に次元の高い、地理教育にたずさわるものとして理解しておかなければならない理論にもとづく地域論を展開され参会者に感銘を与えた。又、午前中の研究発表をもとにし、新教育課程の〃地理B〃についても資料として新教科書の抜粋をもとに先生のラテンアメリカ旅行談をまじえながら、これからの地理教育のあり方についての指標を示された。

＜数学部会＞

＜講　演＞

「写像と行列」

東京教育大学教授　前　原　昭　二　氏

まず関数とは何かということについて考えてみます。

yがxの関数であることの意味は

(1)　yがxを含む式で表わされている

(2)　xの値が変化するに従つてyの値が変化する

(3)　xの値を定めるとyの値も定まる

とその定義において発展してきました。一般に基本的な概念の厳密なる定義は難かしいものです。(1)から(2)への移りは、いわば概念の先どり、(2)から(3)へはあげ足防止のためといえましよう。(3)から発展して写像とか対応とかいう概念へ到り、変数の一般化が考えられてきます。

写像は二つの集合の要素の対応をいいます。

$f : A \to B$

でAからBへの写像を表わします。写像を用いることの長所は、たとえば $\frac{1}{x}$ は不連続関数かという問題では、

$\varphi : R' \to R$ （Rは実数全体、R′はR－{0}）

を考えるとφはR′で連続ということができます。

短所は $\frac{1}{x}$ は$x=0$で不連続であるというような過去の習慣には都合が悪く、ある場合には、言葉を簡略化する方が話の通りが早くなることがあります。

$f : R' \to R$ と $g : R \to R$ を区別しなければならないのではきびしすぎることもあるでしょう。

$y = f(x)$

と表わされたものについて、fが関数なのか、yが関数なのか、またx^2とt^2は同じ関数か違う関数なのか。関数f(x)とある場合はfが関数で、独立変数がxであるという二つの内容を含んでいます。内容豊富な言葉は定義で理解するより、身体で会得するものです。

行列については、お話をする時間がありませんが、Vとして3次元ベクトルの集合を考えます。

$f : V \to V$

において演算

$$f(\vec{a}+\vec{b}) = f(\vec{a}) + f(\vec{b})$$
$$f(\lambda\vec{a}) = \lambda f(\vec{a})$$

がなりたつとき、fを一次変換といいます。

$\vec{x} = x_1\vec{e_1} + x_2\vec{e_2} + x_3\vec{e_3}$ （$x_1, x_2, x_3, \leftarrow R$）

について

$$\vec{y} = f(x) = f(x_1\vec{e_1} + x_2\vec{e_2} + x_3\vec{e_3})$$
$$= x_1 f(\vec{e_1}) + x_2 f(\vec{e_2}) + x_3 f(\vec{e_3})$$

ここに
$$f(\vec{e_1}) = a_{11}\vec{e_1} + a_{12}\vec{e_2} + a_{13}\vec{e_3}$$
$$f(\vec{e_2}) = a_{21}\vec{e_1} + a_{22}\vec{e_2} + a_{23}\vec{e_3}$$
$$f(\vec{e_3}) = a_{31}\vec{e_1} + a_{32}\vec{e_2} + a_{33}\vec{e_3}$$

とすると$\vec{y}$の成分が決まり、

行列 $\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} \end{pmatrix}$

が一次変換を決めます。

＜研究発表＞

1　羅臼分校における「計算機の数学」実践研修報告

標津羅臼　西田　豊

基礎計算能力を身につけさせ、かつ数学的思考力を高める指導に電卓を用いその授業を計画し、実践した。

2　数学の授業の現代化とO・H・Pの効率的活用について

室東　鈴木　敏彦

学習指導法の現代化の観点から数Ⅰにおけるｔｐの作成過程とO・H・Pを使用しての実践報告である。

3　数学Ⅰにおける写像の指導

— 新指導要領における新部門について —

本別　白坂　陽一

「写像」の定義、合成、逆写像、写像としての関数等のO・H・Pを用いての指導、ＴＰ作成のいくつかの試みの実践報告である。

＜理科部会ー物理分科会＞

＜パネルデスカッション＞

〃基礎理科の中の物理と他教科の境界領域について〃

◎ パネルマン記号

A：国枝　B：斎藤　C：浜　D：根岸　E：小林　F：八田

◎発言要旨

A：基礎理科の内容が現場に充分に理解されていず、採用も商業、家政科にかたよつている。これは基礎理科において物理がやや軽視されている嫌いがあるのと、入試及び実験教材の教師の危惧感によるところが大きい。

B：女子の理科完成教育として基礎理科に期待していたが、Combined scienceとしてのねらいが能力差がかみされたために系統性が失われているので物・化・生のＩを必修にした。

C：基礎理科の内容で〃光と物質〃についてはまあまあこなされているが、〃地球と生物〃は不充分である。基礎理科から物理Ⅱへの関連が問題として残る。この点からも基礎理解の中に、電磁気、熱の内容が欲しい。

D：生物、物理を担当しているが、生物、物理の思考過程が異なつているのを基礎理科では無理して結びつけようとしている。〃易しい理科、興味ある理科〃と考えるならば別の形のものをつくるべきで、基礎理科は必要ない。

E：基礎理科の内容は中学の複習であつて良いと思う。内容を精選し、実験等の実践面を多くとり入れ、現在の〃残された生徒〃の学習の動機づけ、基礎理科で理科の適性を見て、再に覆習する理科の判断とするようにしたらよい。

F：基礎理科は一般理科の再現かと思つた。内容的に易しいと思うのは危険でむしろ程度は高いし、時間配当も少なすぎる。又、ねらいがはつきりしていないし、理科の指導には他四教科の方がまさる。

＜質　疑＞

（札北）斎藤→D

不消化の生徒は物・生どちらに多いか。

D；生物の良い者は物理も良いが、不消化は物理に多い。

（遠別）岡田；基礎理科の基本概念はエネルギー、物理をふまえれば出来るが、展開例は？

（理セ）武部；知識量の増大に共い境界領域が問題になる。科学の体系化即ち系統性をもたせる必要がある。

（湖陵）鈴木→A

境界領域を無理とする理由？

A；境界領域の教材を体系化することに教師が対応出来ない。

（湖陵）鈴木→B

Conbined scienceと異なる点は？

B；系統的にするには方法論を理解させる立場でまとまるが、地学の面で羅列的な面がかなりある。

（まとめ）　司会；基礎理科には入試への危惧、内容の不充分さ、実験の未開発、教師の再教育等に問題点があるが、着実に基礎理科を育てよう。

（理セ）奈良；今後は教科間でモデル的に似ている実験を開発したら良いと思う。

＜研究発表＞

o〃これからの物理実験の展開について〃

北海道版物理実験書編集に当り、物理１を力と運動、エネルギー、波動、電子の四章に分け、各章展開まで進め、一貫した生徒実験の研究が昨秋より各支部毎で行なわれてきたが、この中間発表として、次のように各支部から発表された。

＜力と運動＞

室蘭支部；ストロボ使用による放物線運動の解析、改良タイマーによる加速度運動。

苫小牧・日高支部；運動経路のモデル実験、力学的エネルギー保存則。

＜波　動＞

旭川支部；弦の振動（設備、能力差を考慮）

札幌北地区；単振子、バネ振り子運動の解析、弦の振動、気柱の共鳴

＜電　気＞

苫小牧・日高支部；等電位線、静電気、コンデンサーの充放電、電気分解。

札幌南地区；電気の種類、静電誘導、等電位線、電気容量とコンデンサー。

以上の項目について探究の過程を重んじた展開が示された。

北海道版物理実験書にとりあげられる実験項目は次のとおり決定。

1.運動の解析　2.単振動（バネ振り子）、3.運動量保存則、4.運動の法則、5.力学的エネルギー保存則、6.波動、7.弦の振動、8.気柱の共鳴、9.静電気、10.等電位線、11.コンデンサーと充放電、12.電気分解、13.霧箱

＜理科部会―化学分科会＞

＜研究発表＞

"物質の性質と電気伝導性からみた化学結合"の実験指導法

倶知安　黒　河　正　幸

新指導要領に即応した化学結合に関する実験指導試案として考察された。

質疑応答 ― 具体的な実施の方法、実験試料選択の妥当性、化学Ⅰの領域としての本実験が化学Ⅱの内容にまで触れる事の難点等を中心に意見が交わされた。

助言要旨 ― 指導要領項目では漠然としていて指導法の見当もつかない現在で、教科書の出版以前に具体的な指導法を考えた事は有意義である。固体の色よりも光の透過性の方が、電導性に対応して意味がある。固体の硬さと丈夫さとは異なるので注意を要する。

＜パネルデイスカツシヨン＞

"化学結合の指導法について"

― 残されていく生徒の指導 ―

パネルマンの6氏と小黒氏（霧多布高）から概ねつぎのような意見発表があつた。

清水氏（静内高）― 原子構造などミクロの事象の学習には、16ミリやVTRを活用している。VTRは事前に目を通し抜出してプログラムを組んだり、事前に課題を与えたりしている。ケムスのフイルムも校内教育研究会で借用し利用している。

岩崎氏（樽桜葉高）― ミクロな面を動的に可視的に捕えるには、16ミリやオーバーヘッドを利用し、教科書・板書の無味乾燥さを補つている。オーバーヘッドは16ミリと違い教師のペースに合わせることのできる利点がある。

津田氏（札啓成高）― 教科書は各論重点的なものを避け、教材の体系的構造化を計つている。視聴覚教材は用いず、模型を用いる程度にしている。副電子殻の導入による生徒に混乱に疑問が残る。遷移元素の原子構造は教えにくい。電気陰性度・イオン化工エネルギー・電子対式はとり入れている。

藤森氏（帯柏葉高）― 生徒に気付かせ引出すことに終始しているが、生徒の体験すべきことがあまりに多過ぎて、教える側でも当惑している。新しい化学への研修の場が欲しい。視聴覚教材については使う意義をよく考え、それに振りまわされないよう注意したい。

川上氏（苫工高）― 化学結合をいかによく理解させるかは、生徒の質と教師の質に帰する。ビユレツトの目盛すら満足に読めない生徒に高度な内容を理解させようとするあまり、微小な世界の現象をマクロな模型を用いて教え、明確な固定化した見方をさせることが、果して本当に正しいことか疑問に思う。

加納氏（名寄高）― 能力の高い生徒にのみ目を奪われることなく、能力の低い生徒にも一つでも二つでも分かるように指導することに留意している。化学の内容が高まつていくのに、生徒の質が変わらないことに問題がある。

小黒氏 ― "残されていく生徒"のサブテーマに興味をもつた。九九の分からない生徒にも、せめて卒業時に"化学はよく分からなかつたが、面白くない教科ではなかつた"と言われたい。やさしい教材で少しで

も分かりやすく教えることこそが大切である。

討論話題 ― 視聴覚教材の活用、理科教育の中でいう科学的なものの見方など。

＜理科部会―生物分科会＞

研究発表は北大教養部３０２番教室で６人の発表者によつて行なわれた。最初に美唄東高校の藤倉仁郎先生により分子レベルと個体群レベルの並行教授についてというテーマのもとに実験実習展示などを有効に加えて授業をすすめるために分子レベルから個体レベル迄とそれ以上のレベルとにわけて２人の教師で並行して授業を行なつた結果について報告があり、生徒の反応はよしとする生徒が過半数を占めたが、同時に学習負担が重くなりすぎる等の点で導入部での教授法・内容に検討を加え、生徒自身がその要点を適切にとらえれるように計画性・方向性を明確にしなければならない。又評価方法についてはテスト素点をベースとするのではなくレポート・課題をベースとして、これに素点を加味する方向にしていきたいとの発表があつた。

つづいて札幌開成高校の松田健次先生からアルテミアの教材化についての発表があつた。アルテミアについては東京では小山台高校の小山先生の研究があるが、先生は更にこの研究を展開されアルテミアの卵や餌を参会者に提供し、スライドやＴ.Ｐ.をつかつてきわめて具体的にその飼育方法や教材としての利用法を生態学的、形態学的、発生学的、生理学的、遺伝学的等の各種の観点から数多く教師実験及び生徒実験への応用例として提示され、意欲的な質問も多く出された。第３番目に札幌女子高校の高橋茂生先生から生物教育に於ける放送教材の利用について、放送教材の特性の理解を強調し、生徒にもよく浸透させ、生徒の実情に合つた指導内容を放送教材と他の教材との適切な統合によつてもりこめばあつかい方により個別指導を含め種々の観点から効果的な学習指導を大いに期待しうるとして具体的に札幌女子高に於ける放送教育の実践状況を発表された。

ついで札幌北高の中山利友先生から生態学習に於ける地域教材活用例として前任校である倶知安校での実践例を発表された。まず学校周辺の視察地としては校舎前約５０ｍに位置する鉄道沿線の植物群落及び校舎から２００ｍはなれた所の耕作放棄地の雑草群落を利用し湿地性と原野性の植物の混生している状況及び採集された種類総数約４０種を美しいスライドで映写しながらその指導法を発表された。又羊蹄山に山麓から山頂に到る道路に桑原先生の御指導による指導のための標識がありこれによつても指導され、その上生物の集団に大いに生徒の関心を喚起するために生態学習は６月下旬から７月中旬にかけて夏休み前に実施し自然観察をすすめているとのことである。次に札幌商業高校の桑原義晴先生から自然保護について北海道では未だ本州の如き破壊はなされていないがその危険性はあるとして、具体的な事例を多くあげられて高校生物教育に於ける自然保護指導の重要性を強調された。最後に札幌開成高の梅沢彰先生から先生が先に実施された新生物Ⅰ・Ⅱの履習方法と生態分野の取り扱いについてのアンケートの集計結果とその考察について発表がなされた。その内容は生物Ⅰ・Ⅱの履習方法及び履習学年、履習単位、分割履習について、又生態分野の授業の実態、授業時間数について、授業の時期その他についてのものであつた。

６人の研究発表を終えたところで理科センターの佐々木先生から年々研究発表も充実し意義深い会であつた。明年度も更に実りの多い研究を期待したいとのまとめの言葉をいただいて散会したのは午後４時３０分であつた。

＜理科部会―地学分科会＞

主題　これからの地学教育はどうあるべきか

司会者　香川良道（北見北斗高）

助言者　白鳥宗紀（理科センター）

参加者２４名で１時より３時１０分まで実施。

内容は"昭和４８年度カリキュラム改訂にともなつての地学教育の方向"白鳥宗紀先生（理科センター）の話、研究発表２名の３つが柱となりこれに出席者との討議が加わり有意義な半日でした。

"昭和４８年度カリキュラム改訂にともなつての地学教育の方向"の白鳥先生のお話は地学の内容については各先生方が各自で深く研究しておられるので、今回は方向について話をしたいと前おきして、昭和３７年以前の５単位地学は内容的に深く掘り下げる事に重点をおいて教育した。３７年以後の２単位地学は地学

教育の体系を系統だてて組立てた勉強にする事を目標にして努力し、完全な成功まではいかなかつたが暗中模索ながら一応の成果はおさめた、と考えてよいと思う。必修になり地学という学問が一般によく知られてきている。これなども成果の一つと考えてよいと思う。

又従来の考え方に従つてきた地学実験も昭和４０年のＥＳＣＰの上陸によつて、新しい目を開かされた。そして今では、地学では教室の机上の実験はあまり意味がない、と考えるまでになつた。それは理科の他教科の机上実験のように、再現可能なものを対称として地学の実験をしたいのだが、地学では再現可能なものが、ほとんど見当らないというのが現実なのである。地学は地球生成の時間、空間、エネルギー、宇宙での位置などを知ることにより自然を認識することになり、独自の学問となるのである。自然を近似的にみていくという事が地学独自の考えていく方向である。地学では特に思考的に発展してゆく実験にして欲しいのである。そして地学のこれからの目指すものは宇宙の中における地球の環境、地球の中における環境というものに目をつけた環境科学でなくてはならないのである。

と発表され、出席者からも、全く同感であるという意見が数人から出された。

（研究発表）

"地質図に関する効果的授業について"、　　小樽桜陽　坂　下　　冷

地質図を作図する授業において、図面だけのものにせず、実際の野外に出た時に応用できるように基礎的なものを自己作製のもので理解させている。作図（掛図式で、内容は実習帳、実習８、Ⅲ、各"地層が整合で単斜構造を示す地質図"のものを拡大したもの、とこれに透明厚手ビニールでの思考順序どおりの数枚の解答などが用意されているもの）を利用し、それと同内容の発泡スチロール製の１ｍ四方位の大きな自己作製の地質模型で地層を色分けし、断面も２断面みられるように分割されている。又等高線で積重ねてあるので、図面上の走向の方向のみつけ方などが、生徒の思考過程でみつけられていくように工夫されていた。普段の授業内容をそのまま発表され参加者は非常に参考になりました。

次いで"巡検企画からクラブ活動の発展へ"（経過発表）　　小樽潮陵　及　川　成　夫

地学の巡検は交通が激しくなり、又教官が不足又経費等の面で行動にブレーキが大いにかけられてきているが、地学が生徒に受入れられるようになるためにはどのようにしたらよいかを考えた。そこで小人数のクラブ活動でとおもい、クラブ活動の生徒が乗り気になるように、いろいろな事を試みた。島牧付近の転石調査により付近地層の決定をし、（高文連賞受賞）次いで小樽付近の崖露頭調査をして柱状図をつくり上げさせた（高文連賞受賞）。このように実際にクラブ員の活動をみて地学学習は野外に出て活動する必要がある事を痛感し、この巡検の時間が時間に組込まれるようにならなければ地学の授業の目的が達せられない、と話され、参加者一同も同感。

研究発表のあと巡検実態、４８年度よりの全員参加の地学関係のクラブ活動内容、大学入試と授業内容、授業内容の精選とその問題点、地質模型の自己作成の方法、などと多くの話合いが有意義に行なわれた。

＜保健体育部会＞

＜研究発表＞

ー創作ダンス入門ー

倶知安　山　田　昭　彦

ー本校で実施している必修クラブ活動とその問題点ー

室蘭清水丘　浜　　司

ー本校における体育学習の指導についてー

新得　四　谷　進　吾

ー小規模校における全員参加のクラブ活動ー

喜茂別　芹　田　重次郎

ー衛生看護科の教育課程についてー

美唄聖華　浜　谷　英　雄

ー成人看護実習における視聴覚機材の利用についてー

美唄聖華　斎　藤　とも子

＜研究討議＞

＜保健体育第１分科会＞

二つのテーマを設定、研究協議をおこなう。

①創作ダンスの指導について

o教材としての時間配分について

o授業における（男、女）の同時展開について

o評価について

o視聴覚教材の活用について

o到達目標について

②小規模校における全員参加のクラブ活動

oクラブ活動における教師のあり方

oクラブ活動中の事故について

oクラブ活動の予算について

＜助言者＞

技術的な事より生徒と共に活動する姿勢が望ましいのではないか。

全員参加のクラブ活動について実施にいたる手順に多くの困難点があるが、年間指導計画の総点検を足がかりに計画を進めていってはどのようなものか。

＜保健体育第２分科会＞

クラブ活動に分科会のテーマをしぼり研究討議をおこなう。

①クラブ活動実施上の問題点

o施設設備について

o指導教師の技術研修について

o実施上の予算について

o学習効果について

＜助言者＞

予算については現在試算中で４８年度から予算化の方向で検討中である。

クラブ活動設定の理由について生徒に正しく理解させることが大切で、みんながこれならできるという計画を作ることである。

＜衛生看護分科会＞

研究発表を中心に研究討議をおこなう。

①高等学校衛生看護科の教育課程

o道内における衛生看護学科設置の高校の状況について

o奨学資金について特に考慮すべきだ

o衛生看護学科入学生徒の能力・適性について、とくに中学校での適切な進路指導が大切である

②視聴覚機器の利用について

o衛生看護科の教材になるような既製の録画されたＶＴＲテープがないので、その作製について種々の困難な点がある

o機器の取扱いがむずかしいが、操作が自由にできるよう研修を深めたい

＜講　演＞

「保健体育指導上の諸問題について」

東京教育大学助教授　宇　土　正　彦氏

1.　運動の特性とそれに応じた学習指導

運動の特性を明確にするには、運動の分類が必要である。たとえば、

体　操……（目的のための手段）

ダンス……（身体活動そのものであり

スポーツ……活動自身楽しいもの）

このような分類を基にそれぞれの特性をつかみ学習指導をしてゆくべきである。器械運動を例にとると、この特性を「ある課題を克服するスポーツ」としてとらえその学習指導を 課題ー学習内容ー到達 とおさえることが必要であろう。

また、学習過程においては、適切な課題提示とポイントをつかんだ助言が必要であり、このためには謙虚な指導姿勢と研究がなければならない。

2. クラブ活動の問題点

授業の中にもちこまれた全員必修のクラブ活動は、教育的に操作された特殊なものであり、実施にあたりいろいろと苦労や困難な点があろう。これをどのように解決してゆくかが当面の問題であるが、どのように条件がせばめられても、本来のクラブ活動の必須条件だけは残すよう努力しなければならない。

＜芸 術 部 会＞

「芸術教育」について

講師 荒 谷 正 雄 氏

芸術は創造の世界であり社会の至るところに存在する。我々の生活環境からにじみ出てくるひとつの人間の姿が「文化」であるが、あまり言葉にとらわれず「心のふるさと」として芸術を受けとめ、創造していくことが大切である。以上を起点として話を進めたい。

◎北海道における音楽の流れ

明治初期……・函館が発祥地。文化の本質的な流れ。西洋音楽的な影響によりブラスバンド、ピアノ。→

・北上し経済的基盤の出来ていた小樽へ。文化の流れは早い。→

明治末〜大正初……・行政の中心地札幌へ。森新聞店が「赤帽子吹奏楽団」を結成。札幌ビール、製麻会社、丸井デパート等も同じ。→音楽が大衆と結びつく。庶民的な娯楽としての映画の合間に休憩奏楽。(ブラスバンド→管弦楽)

・北海道農業学校(現北大)にきた宣教師によつて宗教を通した西洋音楽。→合唱、学生によるシンフォニーオーケストラ誕生。→北大交響楽団

昭和初期……札幌新交響楽団結成。ＮＨＫ放送局の専属。(プロ)

庶民の中にブラスバンドが生れ
娯楽の中に管弦楽が生れ
学生の中にシンフォニーオーケストラ
宗教の中に合唱

これらがミックスされて大きな力となる。

戦後、札響の誕生をみる。

芸術の基盤は対社会的な問題。我々は芸術を

①生活を楽しむためのものとして満足するか

②１つの生きる道として更に高度のものを生活の中にとけこませるか

が今後の課題。

◎外国の芸術界について

西洋ではキリストを賛美して作つた音楽。創造→神(切れないもの) 芸術の本能、美が神と結びついて浄化されたもの。現在も同じ形のまゝ残つている。→過去の伝統を自分の足で踏みしめることが大切。生活の基盤が芸術と密着して流れている。日本ではそれがない。

西洋のものを総合的にとつてみて我々はそこに何を求めるか。自分のふるさとを知り、その上でいろいろ吸収し培っていく。

世界に流れる美的な観念(文化の交流)＝人間であることの共通点。外国からみた日本、日本的なもの、世界の人類的なもの等から無限の創造の中に発見される。

◎外国の学校教育について

音楽教育を受けるものはごく特殊なもの。

◎日本の音楽教育の問題

吸収した分を社会は受けとめきれない。

社会態勢の必要性。徹底的な教育→選ばれたもの→北海道の未来をささえるべきもの。（才能発掘）→次代をになうもの。

o芸術教育は純粋な人間を作る。人間性の重要さ（心の暖かさ、美しさ）が大切。

<分科会のまとめ>

提言　山口祐功

o全般についての説明。（単位の問題）

o基礎の領域について

o表現の領域について

o鑑賞の領域について

以上についての研究事項を発表、後、質疑応答に入る。

o単位について（各学校の実情発表）

o教員の確保について

o設備の充実

o基礎指導について。そのねらい。

<芸術部会ー美術>

□　10時40分　研究発表　　深西　長尾教逸

1.　創造性の開発を目ざす芸術教育。

資料・別紙

o "学校教育目標の具体化における美術指導はいかにあるべきか。"について、教育実践目標、教科指導報告に分け説明。（校内事情を説明しながら）

o　社会教育と学校教育との関連の中での美術教育。

o　他教科との関連。

o　創造活動を通して生徒に望むもの。

o　生徒作品の作品例による発表。

□　新指導要領趣旨徹底のための説明。

札幌東　木嶋良治

o　芸術教育振興について。

赤平西　能勢寿雄

o　カリキュラム（札幌北）作成について

土岐禎次

<芸術部会ー書道分科会>

<要　旨>

我々教師の反省としてともすると芸術教育を芸術家教育と混同しているきらいがあつたのではないか。今日の現状をみると芸術における学校教育は発展性を失い社会教育にゆだねている。この反省に立つて将来を見つめていく必要がある。

昭和48年度の新教育課程にのつとり書道教育の真の近代化をはからねばならない。今回の改訂に伴い教育内容、指導内容を精選しその系統化をはかる必要がある。そのためには種々の問題がある。

① 指導事項の精選と評価をどのようにするか。

② 新指導要領に示される調和体、近代詩文を明確にとらえてゆかねばならない。

③ 鑑賞のための題材として教科書によつてまちまちな現代作家の作品をどのようにとらえ、実物による指導をどのようにするか。

<英語部会>

昨年度を上まわる多数の先生方が参加し、本年度の主題である「英語教育の改善をどのように進めたらよいか一新教育課程に関連して」のもとに活発に有意義に部会が進められた。

Ⅰ 特設授業（一年生）

札幌東　蒲　沢　吉　朗

C.H.R. やテープレコーダーを機能的に授業と結びつけ、更にDialogueを組入れることによつて授業を効果的に進められた。いわゆる text を教えるのではなく textで教えるという大切なポイントをとらえた素晴しい授業であつた。

Ⅱ 講演「高校における文学題材の扱い方」

共立女子大学教授　速　川　　浩　氏

教科書の文学題材と生徒の知的成長とが一致したものであれば申し分ないのであるが、生徒の精神年令に見合うものは、題材が難しく理解も困難になる。従つて現段階では、易しいもので、中味の深いものを選ぶのが望ましい。一般に物語を扱う場合には、やゝもすると局部的な理解で終り、全体を把握する所までいつていないのが現状ではないだろうか。もう少し物語の ideaをとらえ、その美しさに生徒が感動することが大切ではないだろうか。氏はPete & the Stick を色々な面（Synopsis. Scheme, The right work etc.）から例をあげながら今後の私達の教材研究に示唆を与えられた。

Ⅲ 研究発表

1 「英語文の組み立てと分析」

札幌北　新　岡　利　明

長い作文を例にあげ生徒のおかし易い間違いをうまく生かしながら組立ててゆく試みを発表された。ややもすると長い文章の作文にあきらめムードになりがちな生徒の力をよくとらえ、特に第1. 2. 3.文型を徹底的に学習していれば文は組立てていけるという自信を生徒に与えている。従来のOral Approachをflexibleに発展してゆく一つの試みであり、素晴しい発表であつた。

2 「昭和46年度新任教員研修会報告」

本別　小　川　貞　成

新任教員として研修会を終え困難とぶつかりながらその成果を授業実践にいかにとり入れるかという新卒らしい若々しい体験発表であつた。特に「生徒達の秘めた意欲と、現実の自分の姿との隔りに悩んでいる。生徒には意欲があるという認識を出発点に指導している。」ということに拍手を送りたい。

3 「Dialogueの必要性とその指導」

深川　村　上　博　信

Dr. R. Ladoの「外国語教授の近道は、Dialogueのmemorization にある。」という考えを、Classroom Englishの中に取り入れ生徒の興味と理解がいかに増してゆくかを発表された。

4 「A Program for Teaching English as a Foreign Language」

長沼　畠　山　康　正

英語をCommunicationの手段としてとらえListeningとSpeakingを通じ、生徒がもつと積極的な人間に変つてゆくよう指導されているという広い視野から英語教育をとらえた示唆に富んだ発表であつた。

5 「恵まれない環境における英語学習とその改善」

厚岸水産　石　川　健　二

英語学習を阻害している条件を明らかにし、それを乗り切つて英語学習の習慣形成まで盛り上げていつた努力の発表であつた。

Ⅳ 提　案

助言者より「明年度より、部会を普通、実業、定時制の三つに分けた方が効果的ではないか」との提案がされた。

Ⅴ 総　会

明年度のテーマとして「新教育課程に関して一英語教育の改善をどのようにすすめるか ― 」が採択された。

＜農業部会＞

＜講　演＞

「農業の進歩と農業教育」

東京大学名誉教授　戸　刈　義　次氏

私の考える新しい物の見方や考え方を述べてみたい。

1. 公害について

農業においても公害を与えないようにするためにたとえば、農薬散布でも残留が必要以上にあつてはならない。化学物質にたよつた農学を生物的手段を強く打ち出す方法でなければならない。アリはメスにオスが集まるので性ホルモン（ヘロモン物質）によるだろう。だからヘロモンを明確にして利用すればアリを１カ所に集めて一挙に殺すことができる。こうした農業技術が必要になつてくるだろう。

2. 今日の教育はそのものに終つて日常生活に結びついていない。

わが国の教育は立身出世的で学校の成績さえよければということで深く反省しなければならない。ここで農業教育について考えてみよう。たとえば、水稲において脱粒難の品種は収量が多いが人力式の機械を使うときは脱粒易のものがよい。その後動力脱穀機ができると取り扱いのよい脱粒難でもよくなつた。しかし普通コンバインでは立毛中に脱穀するために脱粒易のものでなければならない。脱粒難易を生徒に与えるとき栽培を通じてここまで与えれば応用して考えようという意欲がわき、日常の生活に生きてくる。

3. 農業の斜陽について分析が不十分だ

第二種兼業の家計支出をみると第一次兼業に比べて１０％程度多い。今農家は年１３０余万円の収入があるというが、そのうち農外収入が６０％あるということから斜陽だというが、これは平均値であつて立派な経営をしている人もいるわけで悲観する必要はない。また貿易の自由化からみて、わが国の生産物は国際競争に弱いということからも斜陽だというが、これは米国との関係からみればそうである。しかしわが国は仏国程度であるから西欧をみてもおどろくことはない。

これからの北海道農業について

ホクレン企画調査役　西　村　博　司氏

これからの北海道を分析すると次のように要約できる。

1. 農業経営の大規模化と専業化

北海道では専業が５０％維持されているが府県では１４～１５％になつている。

2. 経済的に農業依存度が高い。

3. 環境の変化がはげしい。

中国の食糧が入つてくるため日本農業は大きな打げきをうけるという見方があるがそう過大視する必要はない。

4. 小売業界の変化が大きい。

昭和４１年は販売高の４８％は零細小売店であつたが最近ではビッグ・ストアーの小売高が伸びている。農畜産物もこうした動きに対応してゆかなければならない。

＜午後の部＞

主題は「多様化する生徒の能力に即した農業学習指導法について研究協議する」ということで、平訳（共和農）、伊達（真狩高）、山田（ニセコ高）、谷岡（美幌高）、佐藤（鷹栖高）の各方々から研究発表があり、最後に安田指導主事より講評があつて３時半に閉会した。

＜家庭部会＞

＜講　演＞

「これからの衣生活経営指導について」

埼玉大学助教授　祖父江　茂　登　氏

＜要　旨＞

家庭生活は対人関係と対物件関係の要素から成立し、これを思想的生活面と技術的生活面に分け、その中における家庭生活の姿勢はいかにあるべきかを、A、生活散化　B、生活経営　C、生活作法　D、生活技術に分類させその内容を明確にさせて、これらＡＢＣＤの場面が生活の中における家庭経営であり、Ａを中心とし、ＢＣＤを含むものが家庭管理である。生活構成要素からみる家庭生活はどの様なものであるかを、人間、物、文化律の３要素を中心に要約され、更にそれを衣生活に当てはめ、着る人、着衣法、文化律としての着装方式等について、教科書の題材の背後の問題点を再検討する必要があると云う立場から話が進められ、更に人間社会に於いてお互いの立場を理解し、人類が共存していくための重要な役割を持つ事を、民族服と国際服を例にあげながら述べられた。

＜質疑応答＞

・樹脂加工の標示・衣料障害について・家庭科教育の中で情操面について・既製服の氾濫により教材に対し製作意欲が生徒にみられる・流行と衣生活のあり方・技術面の指導のみでなく考える能力をつけるための指導について・家庭一般の男女必修について等の質問があり、講師より、これからは消費者が科学的立場に立つて消費者運動を大きくしていかなければ改善されない、生徒の指導は家庭生活を社会的視野に立つて経営して行ける人間として指導して、被服製作においては科学的背景をもつた構成実験を指導に加え実験を通し考えながら合理的に製作するにはどうしたらよいか、基本の技術を身につけ、流行を個性化させる等説明があり、教師は特技を持つことが必要で各地域で専門を分担し、情報交換する協力体制が出来れば望ましい、必修については社会教育の面から家庭についての男子への働きかけがあれば解決され易い、家族関係等では不可能でない、指導主事より、全国的には男子に２単位修得させている学校もあるが、現在においては家庭の教科は家庭一般４単位修得させた上で行なわれなければならずその点に考慮の必要があると説明があつた。

＜部　会＞

事業報告、会計報告、役員改選、総則改正についての説明、討議する。

＜研究発表＞

「北空知地区高等学校の家庭科教育の実態と一考察」

江部乙　熊　沢　富　子

課程別による教育課程の実態調査、その他にわたりプリントにもとづいて説明があり、問題点として学習活動の強化、適正教員の配置、技術検定の方法、家庭クラブ活動等、研究サークルの持ち方について話しが深められた。

＜講　評＞

道教委　海　野　指　導　主　事

- 家庭一般の位置づけ、指導法の工夫、理想的な教科書の扱い、創造性、思考性を高める教育に重点を置くべきである。
- 施設、設備の活用を行なう。これについては細目変更を行なうと良い。
- H.P 家庭クラブの問題点については産業教育指導資料をみる。
- 教員の適正配置については普通高校には出来るだけ食物、被服の教員を配置するよう道に要望している。

＜工業部会＞

＜講　演＞

「情報化社会の工業教育」

システム研究センター理事長　片　方　善　治　氏

工業教育が曲り角に立つているということから、現在の教育基盤の変貌に関して、労働集約的から知識集約的に変化しつつある産業構造、教育の大衆化に伴う諸現象、工業教育を受けた者のブルーカラー化、本質的な家庭教育の不在、中学校における進路指導等の問題についての分析がなされ、これに対して、生徒に他を教えさせるような指導法を試みることにより工業人としてのプライドを持たせコミュニケーションの能力を養い、授業に感動の一瞬を覚えさせることができるのではないかとの提案がなされた。つぎに教育の本質的な意味での「人間の能力を引き出す」という機能と教育機器、教育システムとの関連について現在開発されている機器の概要が述べられた。これからの工業教育のあり方については、先ず情報化社会の実相を究明し、新しい観点から工業技術の発展方向を捉え、依然として将来省力化、無人化される分野に強く指向されている現状の打破を計ることの必要性を述べられた。

「教育機器を利用した建築実習への一考察」

名寄　畳　山　孝　雄

施設設備の充実に伴い、主として実習指導の面において、従来の方式を改善し無駄な時間を作らずに一人の教師が同時に指導できる実習項目の数を増大させることと個別指導の実を挙げ個々の生徒の理解度を高めることを目標として、つぎのような教育機器を利用した実習指導を試みた。

材料実習の指導で導入の講義にＶＴＲを活用する班とそうでない班を設けたところ、それら二班の講義終了後と全実習終了後のテスト結果は記憶力や理解力ではあまり差はないが、各動作間のロスタイムは明らかに前者が少なく、動作に対する能力にちがいがでた。

ＶＴＲは全体的な流れや動作を理解するのに優れており、ステイールも可能なので重点的指導もでき、生徒個々のフイードバックも容易であることがわかつた。なお、ソフトウエアの作製にあたつては生徒の意見を収入れて試作を繰返している。

「教育工学を導入した学習指導法をいかにして、広く組織的に推進したらよいか」

留萌工　宮　崎　輝　一

教育工学がめざす「学習指導法」とは、ひとりひとりの子供の能力に応じた指導がなされることである。すなわち、各種指導の形態が、有機的に関連して効率的な効果を実現する指導法といえる。この学習指導法は現行の学校教育の概念を改善し、新しい教育観の認識の過程において成立する。それには学習指導のシステム化をはかりダイナミックな学習指導を確立する必要がある。実践を通じての指導のシステム化について考察すると、

1. 現行指導法を卒直に自己批判する。
2. 教育工学導入に必要な要素をあげ具体的な方法について考察する。
3. 学習におけるシステム化の実践をあげ、個々の技術的な問題について考える。

「教育工学導入による学習指導のための教員組織づくりと問題点」

美唄工　辻　村　時　男

施設設備が充実した現在、それらを効果的に導入するにはいかにすべきかを研究するため工業科の教師７名が集まり工業技術教育研究会を発足させた。おもに取り上げた問題は実験実習である。最近の工高生の無気力、非行、学習意欲の減退、このような中でも生徒は他の座学、製図とくらべ、実験実習には関心を示している。また他教科より単位数、担当教員数も多く効果的指導を行なうことが可能な条件を多く有していると考え、科学的、系統的に実験実習を考察し実践することが急務である。それには施設設備を使いこなす教師組織の確立、管理の仕方が重視される。

実践をつみ上げての改善が少人数の教師で終ることなく全体のものとする必要がある。

＜商業部会＞

＜全体会議＞

商業部会教育課程小委員会試案について

室蘭商校長　浜　崎　静　夫

北海道として教育課程をどう編成していくかということで研究を進めてきた。小学科の教育課程については小学科を設置している学校にまかせることにして、小委員会としては商業の４類型と定時制の教育課程について各専門委員が試案を作成した。この試案は先生方の意見をとり入れ、更に検討を加えて部会としての原案をつくることになる。本研究会では先ず各部会とも最初に小委員会作成の試案について討議されいろいろとご意見をいただきたい。（試案は参加者全員に配布）

＜分科会報告＞

第１分科会　商経関係科目

① 教育課程における商業経済科目群の位置と役割

札幌東商　福　井　俊　夫

商業経済科目は国民経済的な広い視野を養うことと、関連商業科目の有機的なつながりを把握することにある。これらの科目はすべての学科類型において履習されなくてはならなく、そしてマクロ的見方にたつて考えるべき科目である。

② 新指導要領に基づく教育課程編成上特に商経関係科目を中心としての問題点と教育工学導入への考察について

福島商　三　浦　豊　紀

学習指導要領の改訂の趣旨と教育課程編成上の問題点をあげ学習指導法改善のための教育工学導入についての考えを発表

③ 改訂学習指導要領にもとづく商業法規の指導上の留意点

夕張南　中　山　宗　義

商業法規に関して現行学習指導要領はどう改訂されたか比較検討し、商業法規の学習効果をあげるための授業方法について考察

第２分科会　経理関係科目

① 本校経理科の経理関係科目

室蘭商　菅　生　　肇

管理会計、税務会計、機械簿記、経理実践の４科目を中心に科目の相互関連、新教育課程への移行措置について発表

② 新指導要領に基づく教育課程の編成について

仁木商　伊　藤　　喬

生徒の能力適性進路などからどのような教育課程をつくるべきか。現行教育課程の問題点と新教育課程編成上の留意点について発表

③ 本校教育課程編成への取組み ― 経理関係科目に言及して ―

由仁　時　田　弘　根

学校の教育目標および商業科の指導方針等の基盤にたつた教育課程編成の経過について

第３分科会　事務関係科目

① 本校における電子計算機教育

札幌啓北商　河　口　晴　雄

情報処理教育に対する基本的考え方と学習指導上の問題点について発表

② 事務関係科目群の系統的学習についての本校のとりくみ

虻田商　加　藤　和　男

類型設定にたいしての反省と問題点から今後の課題について

③ 女子向教育課程について

旭川商　熊　谷　全　弘

新指導要領にもとづく教育課程の編成で主として女子向事務、秘書実務を中心とした研究発表

第４分科会　商事関係科目

① 商業教育改訂の推移と新学習指導要領にもとづく類型別（営業類型中心）による商事関係科目群「商事」の取扱いについて

新学習指導要領による商事関係科目の取り扱いとその問題点について

士別商　渡　辺　輝　雄

学習指導要領の改訂の推移をとらえ商事がどのように取り扱われ、またそれが新学習指導要領では類型別にどう取り扱つたらよいかについての考察

② 商事学習の一試み ― 実践を通して

深川東　鎌　田　　隆

商事の学習に対する興味、関心を高めるため小集団学習、視聴覚機材の利用等教育実践を通じた研究発表

③ 新教育課程（営業類型）の基調において創造的営業能力の育成に「広告」と「商業美術」の科目はどうあるべきか。

千歳　木　幡　　豊

商業科「営業類型」の教育課程において営業的創造能力の育成には「広告」「商業美術」の履修は不可欠の条件である。

④ 教育課程（営業類型）編成上の諸問題について

小樽商　安　宅　弘　高

教育課程、とくに営業類型のそれは、システム的な考え方に基づいて、系統的、体系的に編成されなければならないとの趣旨発表。

＜水産部会＞

＜講　演＞

「水産教育の振興と将来の課題」

文部省教科調査官　間　山　郁　三氏

産業社会の人口構成が変化し、第１次産業人口が２０％を割り１０年前の½に減少し、昭和６０年には現在の½になると予想される。従つて１人の生産者が１０人分の食糧を生産しなければならない。社会は工業化、情報化され、激しい経済社会の変化に対応していかなければならない。

世界の漁獲高は6,300万トンで、この１０年間に２倍になつた。日本では800万トンで戦後２５年間で２倍であり世界のテンポは非常に速い、我が国では７０万人が漁業に従事し、200万人が漁業によつて生活している。水産教育の寄与率は５０％とまだ低く、200万人のための教育を考えていかなければならない。

昭和６０年には1,２００～1,３００万トンの漁獲が悪条件のなかで要求される。このためには浅海漁場の増大、増養殖、種苗確保等国際的場で技術的にリードしなければならない。

最近海洋開発も進み、海水の淡水化、鉱物資源の利用、油田の開発、原子力利用等真剣に取り組まれている。水産教育にも電気的・機械的な工的分野を取り入れていく必要がある。

昭和４８年度から学習指導要領が改訂されるが、改訂の基本は弾力化、多様化、全人教育である。生徒を理解して効果的学習指導をしていただきたい。

＜海外研修報告＞

小樽水産　勝　木　　茂

(1) ニューフアンドランドの漁業

(2) ニューフアンドランドの教育

＜研究発表＞

「水産製造科における教育のあり方と今後の動向について」

函館水産　谷内　　武

(1)　産業界の動向と卒業生に期待する能力

(2)　卒業後の進路について

(3)　教育課程について

入学者の多様化や社会情勢の変化を考慮し、技術革新に対応出来得るよう教育の目標，内容を整備し、食品製造コース、食品化学コース、食品工学コースの三類型を設定し第二学年より自由に選択出来るように配慮した。

「厚岸湾における浅海増殖」

厚岸水産　緒　形　忠　熙

本校では漁業科３年沿岸コースの水産増殖の教科内実習として、ノリ、ワカメ、カキ、ホタテ、アサリ、サケの増殖を行なつている。教科内実習のため時間に制約があり日程が漁協組と一致しない点、公害が表面化している点等今後研究を続けて行きたい。

「水産におけるＨ・Ｐ指導の推進」

恵山　池　内　順　一

漁家の子弟である生徒をもつて、学校長を頂点とした学校漁業協同組合を組織し、漁業権を確保した。学協組の共同的事業がＨ・Ｐ推進充実のための母体となり、Ｈ・Ｐ実践が学協組の活動となつてゆく。Ｈ・Ｐ指導にあたつては生徒を次の３つのグループに分け実践指導している。(1)家業に従事しているグループ、(2)女子のグループ、(3)漁業以外の家業をもつ生徒および就職グループ

「必修クラブ活動実施に関する考え方」

小樽水産　石　子　博　敏

昭和４８年度から全校生徒にクラブ活動を必修として課していくが、本校ではそれに先がけて昭和４７年度入学の一年生より実施するのでその原案を発表する。

1.　心修クラブ活動のあり方

2.　クラブ活動実施に関する基本方針

3.　実施のための具体的考え方

4.　実施後における問題点

＜部会総会＞

1.　役員改選について

2.　昭和４７年度水産部会テーマの選定

3.　その他、北海道高等学校教育研究大会１０周年記念行事について

＜事務局だより＞

例年になく今年は原稿の集まりが早く、予定通りに印刷所へ原稿をわたせたこと大変嬉しく存じます。それにつけても、毎度のことながら、各部会記録担当にあたられた先生方御苦労様でした。厚くお礼申し上げます。

（編集部一沢田）